NEWS＆Information

奈良県立医科大学附属病院
Nara Medical University Hospital

2024 年 12 月 13 日

報　道　各　位

奈良県立医科大学附属病院

血清 TARC 検査が薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）の診断バイオマーカーとして保険適用されました

奈良県立医科大学皮膚科学（教授：浅田秀夫）の研究成果を基に、血清 TARC 検査が重症薬疹の一つである薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）の診断補助バイオマーカーとして、2024 年 12 月 1 日付で保険適用されました。これにより、これまで専門医でも難しかった発症早期の鑑別診断を迅速かつ客観的に行えるようになり、医療の質向上と患者負担の軽減に寄与します。

背景と意義

DIHS/DRESS は、高熱や多臓器障害を伴う重篤な薬疹で、死亡率が約 10%に上ることが知られています。この疾患では、早期診断と迅速な対応が、重症化を防ぎ、生命予後を改善する上で極めて重要です。しかし、初期症状が他の薬疹やウイルス発疹症と類似しているため、専門医であっても迅速な診断が困難でした。このため、早期に客観的な診断が可能なバイオマーカーの重要性が指摘されていました。

奈良県立医科大学皮膚科学の研究チームは、血清 TARC 値が DIHS/DRESS 急性期に顕著に上昇することを明らかにしました。この知見を基に、先進医療 A「血清 TARC 迅速測定法を用いた重症薬疹の早期診断」が実施され、その成果が認められて今回の保険適用に至りました。

血清 TARC 検査の特徴

- **迅速性**: 血清中の TARC（Thymus and Activation-Regulated Chemokine）濃度を約 17 分で測定可能。

- **高い信頼性**: 客観的な数値データに基づく診断が可能となり、精度と迅速性が向上。
- **実績**: アトピー性皮膚炎や新型コロナウイルス感染症の診断補助としても実臨床で広く使用されている。

今後の展望

本検査法が保険適用されたことにより、医療現場で DIHS/DRESS の早期診断に広く活用されることが期待されます。これにより、適切な治療の早期開始が促進され、重症化リスクの低減や患者の QOL 向上に寄与することが見込まれます。

奈良県立医科大学は今後も、医療の質向上と患者負担の軽減を目指し、先進的な研究や技術開発に取り組んでまいります。

用語解説

1. **薬剤性過敏症症候群（DIHS/DRESS）**
   高熱や多臓器障害を伴う重症薬疹で、抗てんかん薬など一部の薬剤で誘発される。特徴的な病態として、ヒトヘルペスウイルス 6（HHV-6）の再活性化を伴う。病初期には他の薬疹やウイルス発疹症との鑑別が難しい。
2. **TARC（Thymus and Activation-Regulated Chemokine）**
   免疫系の調節に関わるケモカインで、主に T 細胞の移動や活性化に関与。アトピー性皮膚炎の重症度評価や SARS-CoV-2 陽性患者の重症化リスク判定にも用いられている。

この報道資料は、奈良県政・経済記者クラブおよび橿原市政記者クラブの皆様にお届けしています。

【本件に関するお問い合わせ先】
奈良県立医科大学　皮膚科学　教授　浅田　秀夫
MAIL： asadah@naramed-u.ac.jp

【取材のお問い合わせ先】
奈良県立医科大学　総務広報課
TEL ： 0744-22-3051(内線 2206)
MAIL： koho@naramed-u.ac.jp